

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 7 月 27 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25500007

研究課題名(和文)赤ちゃんポストに関する日独比較研究

研究課題名(英文)Comparative research on baby hatches in Japan and Germany

研究代表者

Tobias Bauer (Bauer, Tobias)

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：30398185

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本では未だ十分には把握されていなかったドイツにおける「赤ちゃんポスト」に関する議論を、学際的な視点から徹底的かつ体系的に検討して取り纏め、ドイツにおける取り組みを範例とする日本における当議論にとって不可欠の背景的な情報を提供することができた。また、日独両国における「赤ちゃんポスト」議論の比較考察を通して、両国の当議論にみられる法制度や文化的背景等の共通点と相違点を浮き彫りにし、それによって両国における議論に貢献した。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the analysis of the discussion on the problem of the baby hatch in Germany, because the German baby hatch served as a model for the hitherto only Japanese baby hatch installed in 2007 by the Catholic Jikei Hospital in Japan (Kumamoto). Further, in an attempt to contribute to the discourse in both countries, comparative research on the ethical, legal, and social aspects of the problem was conducted, and key texts of the German debate were translated into Japanese.

研究分野：生命倫理学

キーワード：赤ちゃんポスト 匿名出産 内密出産 日本：ドイツ

1. 研究開始当初の背景

2007年に熊本のカトリック系病院である慈恵病院において、日本初かつ唯一の「赤ちゃんポスト」が設置・運用されて以来、日本では「赤ちゃんポスト」について激しい議論が繰り広げられている。マスメディアに取り上げられ、世論でも注目され賛否両論の意見がぶつかり合っており、今尚その論争は終結していない状況である。

「赤ちゃんポスト」の取り組みについて先行しているドイツの現状は、日本でもメディアにおいて度々紹介されており、熊本の慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」と称される制度も、実際にドイツの「赤ちゃんポスト」制度を範例にしたものである。日本における「赤ちゃんポスト」問題は、倫理的、法的、社会的等の様々な方面から議論されており、その比較対象として、ドイツの現状も法学及び社会福祉学の視点からすでに考察されつつある。

ドイツには2000年の初の「赤ちゃんポスト」の運用開始を皮切りに、現在では全国に80余ヶ所の「赤ちゃんポスト」が設置されており、さらに「匿名出産制度」(約100ヶ所)や「匿名で引き渡す」という形で匿名による子供の委託を可能とする制度も導入されており、政治や学問、社会といった枠において全国規模での議論がなされている。特に、ドイツ倫理審議会によって、「赤ちゃんポスト」の持つ倫理的・法的問題を指摘し厳しく批判し「赤ちゃんポスト」の廃止を要求した見解が2009年に公開されて以降、ドイツでは当問題をめぐる激論が再燃しており、また、関連する分野(法学、社会学、心理学、福祉学、犯罪学等)から、重要なデータや見解、研究成果が提供されたことと相まって、初めて当問題に対して根拠のある倫理的・法学上の評価が可能な時期となってきている。それを受けて、連邦政府も、匿名による子供の委託を可能とする諸制度がはらんでいる問題を解決しようと動き出しているのが現状である。しかし、こういったドイツにおける2009年以降の当議論の展開は、日本においてまだ十分把握と分析されておらず、日本における議論にはまだ役立てるよう整理されていない。

2. 研究の目的

本研究は、日本では未だ十分には把握されていなかったドイツにおける「赤ちゃんポスト」に関する議論を、学際的な視点から徹底かつ体系的に検討して取り纏め、ドイツにおける取り組みを範例とする日本における当議論にとって不可欠の背景的情報を提供することを目的としていた。そして、日独両国における「赤ちゃんポスト」議論の比較考察を通して、両国の当議論にみられる法制度や文化的背景等の共通点と相違点を浮き

彫りにし、それに基づいて、当問題の一般化可能な倫理学上の考察を行い、それによって両国における議論に貢献することも目指していた。具体的な目的は、以下の三点である。

- (1) 2009年以降のドイツにおける「赤ちゃんポスト」に関する議論及び研究成果の整理及び分析
- (2) 「赤ちゃんポスト」の日独比較研究 ドイツの議論及び研究成果の日本の当議論への適用
- (3) 「赤ちゃんポスト」問題に関する一般化可能な倫理学上の考察の試み

3. 研究の方法

(1)平成 25 年度

主に、2009年以降のドイツにおける「赤ちゃんポスト」に関する議論及び研究成果の整理及び分析を行った。

文献調査及び資料収集 本プロジェクトのメンバー全員が各担当分野において徹底かつ体系的な文献調査を行い、その結果を踏まえて、さらに一次資料や日本語・西欧語による二次文献及び参考文献を収集し、その分析に着手した。

ドイツにおける赤ちゃんポストに関する最近の動向を把握するための中核的なテキストの抄訳・要約・分析の調査結果を踏まえて、重要と思われる資料を抽出し、その抄訳及び分析に着手した。

以上の研究に加えて、次年度以降に計画している日独比較研究に備えて、慈恵病院(熊本市)及び福田病院(熊本市)を訪問し、それらの取り組みについての情報収集を行った。

(2)平成 26 年度

主に、「赤ちゃんポスト」の日独比較研究を行い、ドイツの議論及び研究成果の日本の当議論への適用について研究した。

ドイツ現地調査の実施 ドイツの「赤ちゃんポスト」問題については、各分野において、出版されていない資料、つまり、日本では入手できない文献が多く、また、本研究テーマを十全に把握するために不可欠な作業として、赤ちゃんポスト運用者や当問題に取り組んでいる研究者等との研究成果の交換等も必要になってきたため、本プロジェクトのメンバー(3名)がドイツで現地調査を実施した。現地では、直接資料や文献を入手するだけでなく、運用者や関係者にインタビューを行い、また、ドイツの大学や研究機関を中心に、下記の場所で本研究に関する諸々の情報収集も行った：

ドイツ倫理審議会（ベルリン）、シュテルニ・パーク福祉団体（ハンブルク）、Terre des hommes 福祉団体（オスナブリュック）、プロテスタント専門大学（ボーフム）、SkF 福祉事業団（ミュンスター）、SkF 福祉事業団の連邦中央事務局（ドルトムント）、DRZE 研究センター（ボン）、ボン大学（ボン）。

分野ごと及び包括的な日独比較研究本研究プロジェクトのメンバーが、法学、社会学、福祉学、倫理学等の各専門領域毎に日独比較を行いながら、ドイツにおける議論や研究成果が日本における当問題の理解や解決に如何に貢献出来るのか検討した。

(3)平成 27 年度

主に、平成 26 年度から取り組んできた、ドイツにおける「赤ちゃんポスト」議論および研究成果の日本の当議論への適用についての検討を継続しながら、本研究のまとめと研究成果の公開を行った。

4. 研究成果

本研究の申請時における当初の三つの目的について、下記のような成果をあげることができた。

(1) 2009 年以降のドイツにおける「赤ちゃんポスト」に関する議論及び研究成果の整理及び分析 「赤ちゃんポスト」問題に関して重要と思われる下記の資料を抽出し、その抄訳及び分析を行い、公開した。

(ア) ドイツ青少年研究所編『ドイツにおける「匿名出産」及び「赤ちゃんポスト」』（2011 年）の「まとめ」及び「結論」の翻訳。（連邦家族省の依頼によって実施された包括的な調査研究であり、「赤ちゃんポスト」及び現行の「匿名出産制度」を批判し、代わりに「内密出産制度」を提案している。）

(イ) ドイツ青少年研究所編『嬰兒殺し』（2011 年）の「まとめ」の翻訳。（上記（ア）の枠内で行われた研究で、犯罪学・心理学の視点から、「赤ちゃんポスト」が嬰兒殺しや新生児の遺棄の防止にはつながらないと主張している。）

(ウ) ドイツ青少年研究所編『非配偶者間人工授精』（2011 年）の第 7 章「匿名出産と精子提供による出産の類似点と相違点」の翻訳。（赤ちゃんポスト・匿名出産と非配偶者間人工授精に共通した問題である子供における自己の出自を知る権利について論じている。）

(エ) 2014 年 5 月 1 日から発効された「内密出産法」に関する資料の翻訳。

(2) 「赤ちゃんポスト」の日独比較研究 ドイツの議論及び研究成果の日本の当議論への適用

平成 26 年度に検討を始めた日独比較の全体像を元に、日独両国における共通点と相違点を整理し、その分析を行った。さらに、ドイツで 2014 年に「赤ちゃんポスト」の代替策として導入された「内密出産制度」の法的・倫理的評価を試み、日本においても同様の制度が導入可能かについても検討した。また、国連の「児童の権利条約」にも挙げられている「自己の出自を知る権利」に関しては、赤ちゃんポストに預け入れられた子供のその権利が侵害されるとされている事実については、日独両国における議論及びその権利の両国の法制度における異なる位置づけについても検討した。

(3) 「赤ちゃんポスト」問題に関する一般化可能な倫理学上の考察の試み

本研究の締め括りとして、研究期間内にあげられた成果を最終報告書に纏め、公開した。また、得られた研究成果を研究者だけではなく、熊本県民にも幅広く紹介するために、一般公開の国際シンポジウムを開催した。そのシンポジウムでは、本研究プロジェクトのメンバーに加え、国内の研究者及び当問題に詳しいドイツ連邦家族省の「内密出産制度」担当係官及び赤ちゃんポストを運営している民間福祉団体の責任者をドイツから招き、講演を頂いた。

本研究プロジェクトでは、日独両国における「赤ちゃんポスト」問題の具体的な倫理学上の解決案や結論を導き出すまでには至らなかったが、今後は、両国の本議論にとって特に重要だと思われる「出自を知る権利」の視点からの更なる考察が必要であるということが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Tobias Bauer, A Discussion of the Baby Hatch from the Viewpoint of a Child's Right to a Knowledge of his/her Parentage: Perspectives from the German Debate, Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine, 査読有、Vol. 9、2015、31-43

床谷 文雄、養子法の提案、戸籍時報、査読無、Vol. 731、2015、11-24

阪本 恭子、赤ちゃんポストの今後のあり方を見直す：日独の現状を比較しながら、生命倫理、査読有、Vol. 26、2015、78-86

〔学会発表〕(計7件)

阪本 恭子、赤ちゃんポストの未来：日独の現状から見てくるもの、国際シンポジウム「赤ちゃんポストを再考する 日独両国における母子救済の新たな取り組み」、2016年2月21日、熊本大学くすの木会館（熊本市中央区）

トビアス バウアー、「Statistical Lives」論からみる赤ちゃんポスト、国際シンポジウム「赤ちゃんポストを再考する 日独両国における母子救済の新たな取り組み」、2016年2月21日、熊本大学くすの木会館（熊本市中央区）

床谷 文雄、法律から見た赤ちゃんポストと内密出産、国際シンポジウム「赤ちゃんポストを再考する 日独両国における母子救済の新たな取り組み」、2016年2月21日、熊本大学くすの木会館（熊本市中央区）

良永 彌太郎、熊本県検証会議一委員から見た「こうのとりのゆりかご」、国際シンポジウム「赤ちゃんポストを再考する 日独両国における母子救済の新たな取り組み」、2016年2月21日、熊本大学くすの木会館（熊本市中央区）

Tobias Bauer、Identified versus statistical lives - A new perspective on the problem of the baby-hatch、国際学会 9th Kumamoto University Bioethics Roundtable: Bioethics and Conflict Resolution - Dialogues for our Sustainable Future、2015年12月5日、熊本大学くすの木会館（熊本市中央区）

床谷 文雄、ベビークラッパから内密出産制度へ ドイツの赤ちゃんポストに関する新制度の紹介、関西家事事件研究会、2015年3月14日、大阪家庭裁判所大会議室

Tobias Bauer、Kyoko Sakamoto、Rethinking the Baby-box: Germany's New Law for Confidential Birth in Comparison with Recent Approaches in Japanese Obstetrics、2014 International Conference of the Japanese Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine(日本医学哲学・倫理学会)、2014年11月24日、東洋大学(東京)

〔図書〕(計3件)

トビアス バウアー、多田 光宏(編)、熊本大学、赤ちゃんポストを再考する：日独両国における母子救済の新たな取り組み、2016、220

ナーシング・サプリ編集委員会(編)、メディカ出版、事例でまなぶ ケアの倫理、2015、166(82-84)(阪本 恭子著)
トビアス バウアー(編)、熊本大学、

ドイツにおける「赤ちゃんポスト」・「匿名出産」に関する資料集、2014、79

〔その他〕

T.バウアー(校閲)「現在のドイツの状況」、『「こうのとりのゆりかご」第3期 検証報告書』、7頁
(https://www.city.kumamoto.jp/comm on/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&i d=6463&sub_id=1&flid=43570)

国際シンポジウム「赤ちゃんポストを再考する 日独両国における母子救済の新たな取り組み」(2016年2月20日~21日)関連の新聞記事

(ア)「赤ちゃんポスト 日独の研究者ら 20・21日にシンポ 熊大」、『朝日新聞』熊本県 2016/2/17 水・朝刊 29ページ

(イ)「赤ちゃんポスト考える 20、21日 熊本大で国際シンポ」、『熊日日新聞』総合 2016/2/17 水・朝刊 4ページ

(ウ)「赤ちゃんポスト 日独の現状と課題 20、21日に熊本大でシンポ」、『西日本新聞』熊本県 2016/2/17 水・朝刊 20ページ

(エ)「独の内密出産 紹介 赤ちゃんポスト 国際シンポ開幕 熊本大」、『熊日日新聞』都2 2016/2/21 日・朝刊 19ページ

(オ)「赤ちゃんポスト 現状報告 熊本大で国際シンポ 日独の研究者ら」、『読売新聞』地域 2016/2/21 日・朝刊 29ページ

(カ)「日独の母子救済を考察 熊本大 赤ちゃんポスト シンポ」、『西日本新聞』熊本県 2016/2/21 日・朝刊 20ページ

(キ)「障害児預けた外国人3例 慈恵病院 ゆりかご シンポで報告」、『熊日日新聞』総合 2016/2/22 月・朝刊 3ページ

(ク)「赤ちゃんポスト 課題報告 国際シンポ 目的異なる 指摘も」、『毎日新聞』地域 2016/2/22 月・朝刊 25ページ

(ケ)「専門部会の委員 経験者らが講演 熊大国際シンポ最終日」、『読売新聞』熊本北 2016/2/23 火・朝刊 29ページ

(コ)「日独の違い浮き彫りに 熊本大で 赤ちゃんポスト 国際シンポ」、『熊日日新聞』暮し 2016/3/5 土・朝刊 23ページ

(サ)「日独 赤ちゃんポスト 課題探る 熊本でシンポ」、『朝日新聞』熊本県 2016/3/9 水・朝刊 30ページ

6 . 研究組織

(1)研究代表者

トビアス バウアー (BAUER, Tobias)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：30398185

(2)研究分担者

良永 彌太郎 (YOSHINAGA, Yataro)
熊本大学・法学部・名誉教授
研究者番号：20139504

阪本 恭子 (SAKAMOTO, Kyoko)
大阪薬科大学・薬学部・准教授
研究者番号：20423098

多田 光宏 (TADA, Mitsuhiro)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：20632714

床谷 文雄 (TOKOTANI, Fumio)
大阪大学・国際公共政策研究科・教授
研究者番号：00155524
(平成26年3月18日～)